

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	環境学入門 (科目ナンバリング: ENV071050)				
授業担当者(所属・職名)	吉田 淳一(経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉田 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

概要

<p><b>履修目標</b></p> <p>人間と環境、人口問題、食糧問題、我々を取り巻く種々の環境問題(大気汚染、水質汚濁、廃棄物等)、エネルギー資源と環境問題、環境保全などについて幅広く学習することによって、環境学の基礎的思考力及び環境問題の現状を理解し、将来に向けた課題を考え、自分なりの考えを見出すことにより環境に関する諸課題に対して積極的に取り組むための姿勢を学ぶ。</p>
--

授業の位置づけ

<p>経営学部経営学科のDP「1(1)」、「1(2)」、「2(1)」に対応する。          社会福祉学部社会福祉学科のDP「1(2)」、「1(4)」、「2(1)」に対応する。          芸術学部デザイン学科のDP「1(1)」、「2(1)」に対応する。          美術学部建築学科のDP「1(1)」、「2(1)」に対応する。</p>
---

到達目標

<p>我々を取り巻く種々の環境に関する課題(身の周りの環境問題、地球規模の環境問題、日本における環境問題、予測される将来の環境関連の課題等)の本質を理解し説明するとともに、それらの環境課題に対して今自分は何を為すべきか、また何が出来るかについて具体的に提案することができる。</p>
---

授業全体の内容と概要

<p>環境の定義、環境負荷、人口増加と経済活動の増大に伴う自然環境の変化と課題、日本における環境問題(大気汚染、水質汚濁、食料、廃棄物等)の概要、日本における主なエネルギー資源とその問題点、新しいエネルギー資源の開発、および環境保全の在り方と問題点について、講義・文献調査・グループディスカッションを組み合わせて進める。</p>
--

授業の方法

<p>プリントを用いて、我々を取り巻く種々の環境問題(身近な環境問題、日本における環境問題、地球規模の環境問題、エネルギー問題など)の概要を講義形式で説明する。また、講義内容について自らの知識として定着が図れるよう、文献調査、レポート作成、グループディスカッション及びプレゼンテーションを実施する。講義中に不明な点はフィードバックシートに記入して提出するとともに、自分で書籍等で調査して予習・復習を行う。また、グループディスカッション課題については、必要な調査を行い相互に意見交換して、グループとしての見解をまとめて発表資料及び概要説明資料としてまとめ、プレゼンテーションすることにより受講者全員でディスカッションを行う。</p>
---

アクティブラーニングの実施方法

<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模範授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート課題(グループディスカッション課題を含む)の進め方等については、その都度指示する。</li> <li>毎回フィードバックシートを配布するので、不明な点や要望事項などを記入して提出する。</li> <li>フィードバックシートを活用して、授業内容を自ら積極的に調べ、積極的に調べる姿勢で授業に臨むこと。</li> <li>自分が興味のある事項を見出し、積極的に調べること。</li> </ul>
---

資格指定科目

--

評価方法・基準

<p><b>評価前提条件</b></p> <p>単位認定に必要な最低出席回数は、11回以上。定期試験(期末試験)は行わないが、数回のレポート課題(グループディスカッション課題を含む)に対するレポート内容の充実度、講義中に行う復習課題(中間テスト)の結果、フィードバックシートにおける主体性等を総合して評価する。</p>					
<p><b>評価方法</b></p>					
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	75%	0%	20%	5%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
世界人口の増加と環境問題の関係に関する理解	世界人口の増加と関連する環境問題について、現状から予想される複数の将来の課題が定量的をもって具体的に例示され、かつその課題の解決方法及び実施効果が定量的に説明できている。	世界人口の増加と関連する環境問題について、現状から予想される複数の将来の課題が定量的をもって具体的に例示され、かつその課題の解決方法及び実施効果が定量的に説明できている。	世界人口の増加と関連する環境問題について、現状から予想される将来の課題の一部が例示され、かつその課題の解決方法が実施効果とともに定量的に説明できている。	世界人口の増加と関連する環境問題について、現状から予想される将来の課題の一部が例示され、かつその課題の解決方法が定量的に説明できている。	世界人口の増加と関連する環境問題について、現状から予想される将来の課題が例示されていない。又は例示されていても解決方法が抽象的である。
地球温暖化問題に関する理解	地球温暖化に対する対策について、自分自身を取り組むものと社会全体が取り組むべき複数の対策を具体的に挙げ、明確な理由とともにそれがもたらす効果と課題について、定量的に説明されている。	地球温暖化に対する対策について、自分自身を取り組む複数の対策を具体的に挙げ、明確な理由とともにそれがもたらす効果と課題について、定量的に説明されている。	地球温暖化に対する対策について、自分自身を取り組む複数の対策を具体的に挙げ、明確な理由とともにそれがもたらす効果と課題について、定量的に説明されている。	地球温暖化に対する対策について、自分自身を取り組む複数の対策を具体的に挙げ、明確な理由とともにそれがもたらす効果と課題について、定量的に説明されている。	地球温暖化に対する対策について、自分自身を取り組む対策が一般的で、それがもたらす効果や課題についても、説明が抽象的である。
日本のエネルギー問題に関する理解	日本のエネルギー自給率向上のために必要な対策とそれを実行するための課題について、多面的な定量的な根拠に基づいて分析を行い、自分なりの提案が説明されている。	日本のエネルギー自給率向上のために必要な対策とそれを実行するための課題について、定量的な分析が行われ、それを基にした自分なりの提案が説明されている。	日本のエネルギー自給率向上のために必要な対策とそれを実行するための課題について、定性的な分析を基に、一般的な提案が説明されている。	日本のエネルギー自給率向上のために必要な対策とそれを実行するための課題について、現状調査の結果がまとめられている。	日本のエネルギー自給率向上のために必要な対策とそれを実行するための課題について、現状調査や分析ができていない。

教科書・参考文献・資料等

<p><b>教科書</b></p>						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等

No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『文系のための環境科学入門』	藤倉良他	有斐閣			
2	『エコエコノミー時代の地球を語る』	レスター・ブラウン	家の光協会			
3	『地球温暖化』	明日香壽川	岩波書店			
4	『持続可能な未来のために』	吉田和文他	北海道大学			
5						

基本情報

科目分類区分	共通教育科目	対象学科・配当	全学科・1年		
開講時期	3Q	授業形態	講義	必修・選択	選択
科目名称	環境学入門 (科目ナンバリング: ENV071050)				
授業担当者(所属・職名)	吉田 淳一(経営学科・非常勤講師)	研究室所在	1号館1階非常勤講師室		
単位数	2 (単位認定責任者: 吉田 淳一)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明。人間と環境の関係について。環境学とは。環境負荷とは。	環境の定義を調べる(90分)。	環境の定義の確認する(90分)。
2	人間と環境：我々の活動と環境	環境問題の概要を調べる(90分)。	日本における環境問題の概要を覚える(90分)。
3	地球規模の環境問題：人口増加と食糧問題(人口の急激な増加)	世界人口の変遷と適正人口について調べる(90分)。	世界人口と適正人口のギャップについて考える(90分)。
4	地球規模の環境問題：人口増加と食糧問題(慢性的な飢餓状態に陥っている発展途上国、フードロス)	発展途上国における食糧事情について調べる(90分)。	発展途上国における食糧問題の解決策について考える(90分)。
5	地球規模の環境問題：人口増加と食糧問題(人口問題・貧困対策)	人口問題と貧困対策について調べる(90分)。	人口問題と貧困対策について考える(90分)。
6	地球規模の環境問題：食料危機と国際問題(現状・課題及び対策、グループディスカッション、レポート作成)	食料危機について調べる(90分)。	食料危機対策について考える(90分)。
7	地球規模の環境問題：食料危機と国際問題(プレゼンテーション、全体討論)	食料危機の解決策について調べてまとめる(90分)。	他グループの提示した解決策について考える(90分)。
8	地球規模の環境問題：地球温暖化問題(現状と将来)	地球温暖化とは何かについて調べる(90分)。	地球温暖化における本質の問題点について考える(90分)。
9	地球規模の環境問題：温室効果ガス(国際的及び日本の対策、現状と課題)	温室効果ガスの種類について調べる(90分)。	国際的取組みの現状と将来について考える(90分)。
10	地球規模の環境問題：地球温暖化対策(調査)	温暖化対策の現状について調べる(90分)。	温暖化対策を考える(90分)。
11	日本における環境問題：大気、水質、廃棄物、環境保全(グループディスカッション、レポート作成)	日本の環境問題の現状について調べる(90分)。	日本の環境問題への対策を考える(90分)。
12	日本のエネルギー資源と環境問題：エネルギー資源の需給状況と問題点	エネルギー資源の種類と化石燃料の問題点について調べる(90分)。	エネルギー資源の種類と化石燃料の問題点を理解する(90分)。
13	日本のエネルギー資源と環境問題：新エネルギー	新エネルギーの種類と問題点について調べる(90分)。	新エネルギーの現状と課題点について確認する(90分)。
14	日本のエネルギー資源と環境問題：エネルギー問題(解決策の調査・検討、グループディスカッション、レポート作成)	エネルギー問題の解決策について調べる(90分)。	エネルギー問題の解決策について考える(90分)。
15	日本のエネルギー資源と環境問題：エネルギー問題(解決策の提案、プレゼンテーション、全体討論)	エネルギー問題の解決策について提案をまとめる(90分)。	他グループの提示した解決策について考える(90分)。
16	課題に対する総まとめと解説	講義全体を通して質問事項をまとめておくこと(90分)。	解説・フィードバックを受けて講義全体の理解を深めること(90分)。

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			